

セ試志願者数は、 2年ぶりの減少となる54.0万人前後か!?

—出願締め切り時点の志願者数は51万8,565人—

旺文社 教育情報センター 19年10月12日

来春の高校卒業者数が9年ぶりに5%近い大幅な減少となる中、20年センター試験の出願受付が、10月12日締め切られた。大学入試センターから発表された、同日17時現在の出願状況は以下のとおりである。

●出願総数	518,565人(528,898人; -10,333人、2.0%減)
<内訳>	
○高等学校等卒業見込者 (高等学校等経由出願)	418,423人(424,579人; -6,156人、1.4%減)
○高等学校卒業者等 (個人直接出願)	100,142人(104,319人; -4,177人、4.0%減)

- (注) 1. ()内は、前年締め切り(18年10月13日17時現在)の志願者数、及び増減数と割合を示す。
2. 19年10月12日の消印まで出願を受け付ける。
3. 重複出願等の確認後、確定志願者数が発表される予定。

最終的な志願者数は、今後消印有効分の2万人程度が加わり、54万人前後になるとみられる。これは2年ぶりの減少で、19年の55万3,352人の2~3%減となる。

高等学校等卒業見込者(現役)の志願者数は、19年より6,156人(1.4%)減少した。18歳人口・高卒者数が平成11年以来、9年ぶりに5%近い大幅な減少が見込まれる中で、1.4%減に留まっている

これは、現役の大学進学率アップが見込まれている中で、私立大のセンター試験参加増(17大学44学部増の467大学1,287学部)と短大の参加増(8短大増の156短大)に加え、国公立大のセンター試験“多数科目負担”を敬遠し、少数科目の私立大センター試験利用入試へ流れる“現役志願者層”の拡大などが要因としてあげられよう。

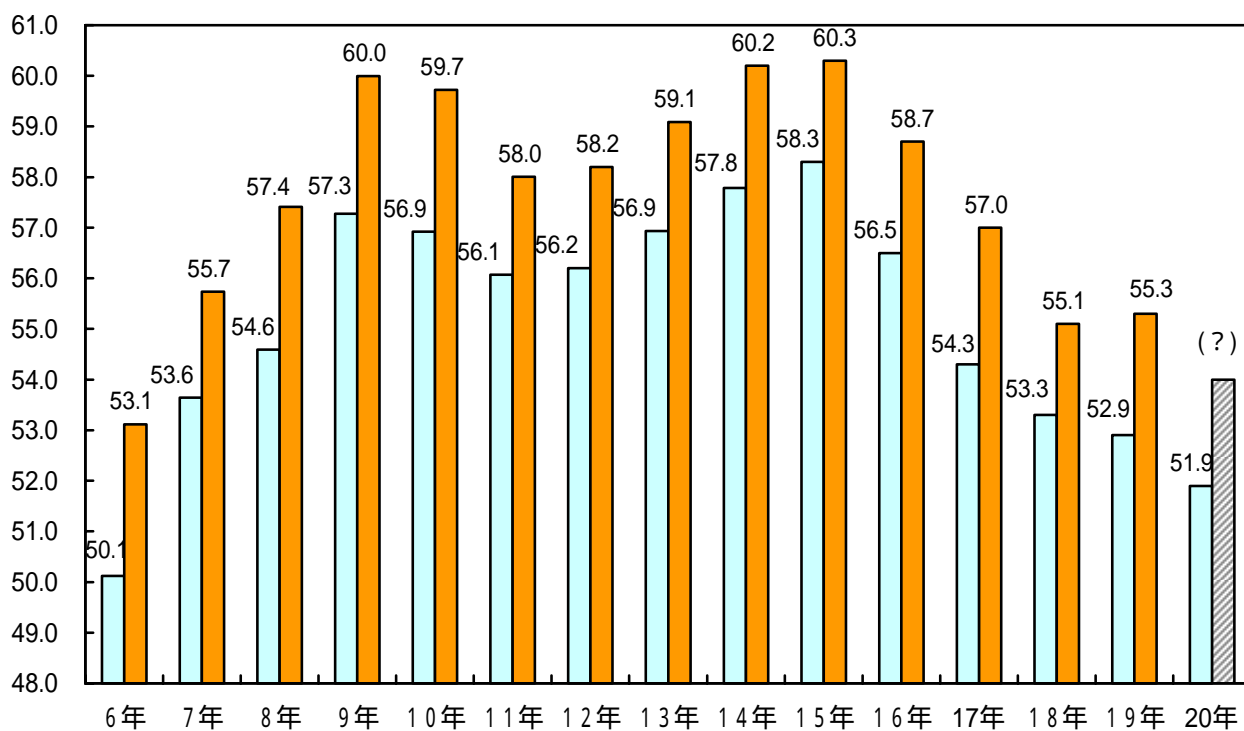
一方、浪人等は4,177人(4.0%)減で、16年から5年連続の減少である。浪人の減少は、受験生数の減少に加え、一部の難関大学・学部を除き、全体としてはさらに“広き門”となり、浪人を生む素地が一段と縮小していることによる。

* 次ページに、センター試験出願最終日と確定の志願者数の推移(図1)、センター試験を利用する私立大・短大数の推移(図2)を掲載。

(図1)

セ試志願者数(出願最終日 & 確定)の推移

(万人)



(図2)

センター試験を利用する私立大&短大;大学・学部、短大数の推移

